

1. 北海道（地域別調査機関：株式会社北海道二十一世紀総合研究所）

（－：回答が存在しない、＊：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (北海道)	◎	旅行代理店（従業員）	来客数の動き	・夏季は、国内観光の繁忙期であり、国内航空便については、全路線平均で高い搭乗率を維持するなど、堅調に伸びている。夏休みの帰省需要も好調に推移している。一方、国際便は、中国からの需要が減少しているものの、韓国からの観光需要及びゴルフ需要が伸びていることで、全体的には前年を上回る水準となっている。
	◎	その他サービスの動向を把握できる者〔フェリー〕（従業員）	来客数の動き	・天候の影響もみられたものの、今年は9月の大型連休があったことで、旅客も車両も前年比で大幅な増加となった。
	○	商店街（代表者）	販売量の動き	・ここ数か月、来客数と単価が上向きに推移している。ただし、金利が上昇傾向にあることから、伸びが鈍化し始めている。消費に対して、客が様子見る傾向がみられている。
	○	一般小売店〔土産〕（経営者）	来客数の動き	・例年9月は、夏休み後ということもあって、閑散期となるものの、今年は月末を迎えても来客数の落ち込みが余りみられない。夏休みをずらして、秋のイベントを目的に当地を訪れる客も多い。インバウンドは、アジア圏からの観光客に加え、国内線を乗り継いで当地を訪れる欧米からの観光客が増えている。
	○	百貨店（販売促進担当）	来客数の動き	・物価の上昇は続いているものの、以前と比べて、消費者の購買意欲が回復している。インバウンドの来店も安定的に伸びている。こうした状況はしばらくの間続くことになる。
	○	スーパー（役員）	お客様の様子	・9月の大型連休が天候に恵まれたこともあって、帰省客や観光客が多くみられた。それにより、消費も活発になり、9月全体の売上の底上げにつながった。
	○	コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・9月は大型連休があったこともあって、全体的に人の動きが活発であった。そのため、飲料やレジ横に陳列している商材の売行きが好調に推移した。
	○	コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・今年は9月の大型連休があったことから、インバウンドも含めた当地域外からの観光客の動きが非常に良く、消費も活発であった。そのため、景気は良い状態で推移している。
	○	乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・新型車の発売効果により、客の購入意欲が強まっている。来客数も増加しており、それに伴って商談の機会も増えている。
	○	その他専門店〔医薬品〕（経営者）	お客様の様子	・9月の当地は、気温がそれほど高くなく、雨や台風の影響もほとんどなく、過ごしやすかったことから、客の来店動向や購買状況が好調に推移した。ただし、夏物商材は余り売れなかった。
	○	高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・9月の大型連休の来客数は、お盆やゴールデンウィークと比べても多いほどである。特にインバウンドの来店が多く、直近では国内客を上回っている。
	○	高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・前年と比べて、観光客が多いことから、景気はやや良くなっている。
	○	旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・法人の先行販売状況は上向き傾向で推移している。これまでは、企業に一定の手控え感がみられていたものの、ここに来て、秋以降の案件が徐々に顕在化している。特に周年事業に関連した案件は活況を呈しており、記念イベントなどを含めた相談もみられている。
	○	タクシー運転手	販売量の動き	・少しずつ乗務員を採用できるようになっていることに加え、4月からの値上げ効果もあいまって、売上が増加傾向にある。地域のイベントによる集客がみられたこともプラスであった。

○	通信会社（企画担当）	お客様の様子	・端末の購入や料金プランの見直しに関する相談が継続していることから、店舗の利用客が安定的に推移している。客の様子をみると、最近では価格だけではなく、ポイント還元や金融サービス、映像サービスなども含めた総合的な価値を比較することが増えている。客の消費動向については、店舗や商圈による差はみられるものの、極端に落ち込んでいる様子はみられない。全体としては、客の慎重さはありつつも、需要は底堅く推移している。
○	観光名所（従業員）	来客数の動き	・9月の天候が良好だったことから、当施設を訪れる観光客も順調に推移した。インバウンドは、多彩な国・地域からの利用があり、引き続き好調に推移した。国内観光客は、シルバー層や若者の小グループによる利用が多くみられたほか、売店では比較的単価の高い商品もよく売れていた。
□	商店街（代表者）	販売量の動き	・9月は、比較的天候に恵まれていたにもかかわらず、客の消費が伸び悩んでおり、売上は前年を下回った。特に駐車場の稼働率が低下していることから、燃料を始めとした物価の上昇が大きく影響していることがうかがえる。
□	商店街（代表者）	来客数の動き	・有名な飲食店や菓子店には多くの客が来店しているものの、それ以外の店舗は相変わらず客が少ない状況にある。
□	一般小売店（経営者）	販売量の動き	・売上は前年と横ばいで推移しているものの、来客数が減少している。
□	百貨店（売場主任）	単価の動き	・ボリュームゾーンの客による購買額は減少傾向にあるものの、富裕層などの消費額の多い客による購買は好調であった。特に、ラグジュアリー、宝飾、時計などの高額品が好調に推移した。
□	スーパー（店長）	お客様の様子	・悪い意味で景気は全く変わらない。賃上げが物価上昇に追い付いていないこともあって、客から物価高で生活が困難という声をよく聞く。
□	スーパー（店長）	お客様の様子	・気温が低下していることで、秋物の動きが活発になっている。安価な商材だけでなく、機能性インナーやキャラクター商材など付加価値の高い商材の動きも良い。酒類は増税前の駆け込み需要が顕著にみられている。
□	スーパー（企画担当）	販売量の動き	・買上点数の前年比が低下している。商品単価が上昇していることが影響しているとみられるものの、体感的には、それ以上に消費にブレーキが掛かっている。
□	コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・前年よりも天候に恵まれていることから、売上は前年を上回っているものの、物価高の影響で客の生活防衛意識が強まっている状況は変わっていない。
□	コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・9月の大型連休における人の動きが良かったことから、消費動向は良かったものの、当地の漁獲量が大幅に減少していることから、漁業関係者による消費の落ち込みが続いている。
□	コンビニ（エリア担当）	それ以外	・観光客の動向に大きな変化がみられないことから、景気は変わらない。
□	衣料品専門店（エリア担当）	単価の動き	・今年は前年のような残暑もなく、心地よい秋の訪れとなっている。そのため、秋物商材は比較的好調に推移している。ただし、客単価や買上点数は前年並みで推移しており、余り変化がみられない状況となっている。
□	乗用車販売店（従業員）	来客数の動き	・ここ3か月、新車、中古車の受注量に変化はみられない。これから秋の需要期を迎え、多少は販売量が増えるは見込めるものの、大幅に上向くような兆しはみられない。経済に大きな変化が生じない限り、しばらくは同様の状況が続くことになる。
□	住関連専門店（役員）	販売量の動き	・売上の前年比をみると、3か月前と大きな変化はみられないことから、景気が良くなっているとも悪くなっているとも判断できない状況にある。セール期間中の特価商品の売上が好調であったことを踏まえると、客の節約志向は強いことがうかがえる。

□	観光型ホテル（経営者）	来客数の動き	・宿泊単価が上昇しているものの、旅行会社経由の客を中心に、来客数が少しずつ減少している。
□	観光型ホテル（スタッフ）	お客様の様子	・例年並みの来客数で推移していることから、景気は変わらない。
□	旅行代理店（従業員）	来客数の動き	・引き続き来客数が前年を10%ほど下回って推移している。九州ふっこう応援割に関する報道があったことで、問合せは増加したものの、販売につながるものではなかった。
□	タクシー運転手	来客数の動き	・9月のタクシー1台当たりの売上は、前年12月のタクシー運賃の値上げ効果もあって、前年比プラス6%ほどであった。稼働したタクシーは前年並みであったことから、会社の売上も前年比プラス6%ほどであった。乗務員の採用が順調な一方で、退職する乗務員もみられることから、在籍者の人数は若干の増加となっている。
□	タクシー運転手	来客数の動き	・今年は漁港の水揚げ量が少なく、船団なども来ていない。当地は港町であることから、景気はそれほど良くない。
□	タクシー運転手	来客数の動き	・観光客数が期待していたほど伸びなかったことから、余り変化がみられなかった。
□	美容室（経営者）	お客様の様子	・景気に大きな変化はみられない。ただし、僅かではあるものの、客の来店周期が短くなっていることで、売上が増加している。
□	美容室（経営者）	販売量の動き	・ここ数か月、売上が安定的に推移している。前年と比べても、大きな変化はみられない。
□	住宅販売会社（経営者）	お客様の様子	・一般住宅の着工数は、物価上昇の影響もあって、引き続き低調に推移しているものの、非住宅の建築物は、堅調に推移している。
□	住宅販売会社（従業員）	単価の動き	・人件費や資材価格の高騰が続いていることから、新築住宅やマンションの価格が高止まりしている。また、住宅ローン金利も上昇傾向にあることから、客の購買意欲が低下している。
▲	一般小売店〔酒〕（経営者）	お客様の様子	・周りから、物価高を嘆く声が多く聞こえてくる。客の財布のひもも一段と固くなっている。
▲	乗用車販売店（経営者）	競争相手の様子	・当地の新車及び中古車の受注量は、前年比88%と厳しい状況にある。物価上昇の影響により、特に高額商材で買い控えが強まっている。
▲	乗用車販売店（従業員）	お客様の様子	・天候不順の影響に加え、今秋の値上げ品目が多いといったネガティブな報道があることから、客の購買意欲が低下している。
▲	その他専門店〔造花〕（店長）	お客様の様子	・依然として、客の購買意欲が低下傾向にある。商品価格が上がっているにもかかわらず、売上は、価格上昇前と変わっていない。販売量は1割ほど減少している。
▲	高級レストラン（スタッフ）	販売量の動き	・9月の大型連休の売上は見込みほどではなく、前年を下回った。周辺の宿泊施設では、9月の大型連休の利用客が多く、取引業者も忙しそうにしていたものの、当店は観光客の利用が少ないことから、余り恩恵がなかった。9月全体でも平日の売上が例年を下回るとみられることから、景気はやや悪くなっている。物価高の影響でスーパーの食品が軒並み値上がりしていることもあって、価格設定が高めの店の利用控えは仕方ない面がある。
▲	旅行代理店（従業員）	お客様の様子	・貸切バスの運賃改定や航空運賃の上昇により、当地を出発する企画旅行の費用が、初期見積りの段階で予算を超過することが増えており、計画を断念するケースが相次いでいる。地元中小企業では、コスト削減により、社員旅行を廃止するケースがみられる。また、高齢化に伴う町内会や老人クラブなどの地域コミュニティの衰退により、旅行を主催する団体も減少している。これらのことから、旅行の問合せ件数が減少している。

	▲	タクシー運転手	販売量の動き	・季節要因により、売上は例年どおりに増加したものの、前年をやや下回った。消費に力強さを感じられないことから、景気はやや悪くなっている。
	▲	美容室（経営者）	来客数の動き	・景気が全体的に上向いているわけではないことから、厳しい状況が続いている。
	▲	住宅販売会社（経営者）	来客数の動き	・9月に入ってから、分譲マンションのモデルルームを訪れる客が減少している。金利が上昇していることで、住宅購入に慎重な客が増えている。
	▲	住宅販売会社（営業担当）	販売量の動き	・今後も物価上昇と金利上昇が続くと考える客が増えており、高額な買物に対して、長期間の借入れをして返済することへの抵抗感が増している。
	×	衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・円安に端を発した物価上昇により、実質賃金が減少し、節約志向の強い状況が続いている。家計支出のうち、特に衣料品は節約対象になりやすく、客の買い控えが過去に経験がないほどの状況となっている。
	×	衣料品専門店（店長）	お客様の様子	・例年、季節の変わり目はオーダースーツ需要でにぎわいがみられるものの、半年前と比べても客の反応が悪くなっている。店頭では、客が価格を気にしている様子がうかがえる。物価が上昇しているなか、客単価を上げていきたいものの、むしろ下がっており、非常に苦しい状況にある。
	×	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・景気が余り良くなかった3か月前と比べても、景気は悪くなっている。新車、中古車の販売量は2割以上も落ち込んでいる。
企業 動向 関連 (北海道)	◎	—	—	—
	○	農林水産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・果物の生育状況を見ると、早生種の生育が良好である。このまま順調に推移することで、一段と景気が上向くことを期待している。
	○	食料品製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・当地への個人旅行客が増加傾向にあることから、当地での売上が比較的好調に推移している。
	○	建設業（役員）	受注量や販売量の動き	・各現場では、工事が順調に進捗しており、完成工事高は計画を上回るペースで推移している。さらに、民間デベロッパーによる大型開発案件の新規受注もあって、切れ目のない施工体制が続いている。管理技術者の現場稼働率もほぼ100%と高水準で推移していることから、利益確保につながっている。
	○	輸送業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・農作物の収穫が好調に推移していることから、野菜の輸送量が前年から大幅に増加している。さらに、今後の収穫に備え、倉庫からの出庫を進める動きも旺盛である。また、紙パルプ関連の動きも堅調である。倉庫関連では、バターや粉乳などの乳製品、米が順調に数量を伸ばしている。鉄道の輸送障害の影響で、鉄道コンテナの取扱量は3割減となったものの、その分、トレーラー輸送に切り替える動きがみられた。
	○	輸送業（支店長）	受注量や販売量の動き	・農産物の収穫が好調なことから、物量が増加している。
	○	通信業（営業担当）	取引先の様子	・半導体関連産業やG X関連産業、副首都構想を巡る動きなどを受け、将来にわたって、関連業界を中心に景気が上向くことが期待できる。
	○	金融業（従業員）	取引先の様子	・原価、人件費、諸経費の増加が企業の利益を圧迫している状況がみられるものの、製造業では価格転嫁が進み、販売量が回復傾向にある。ただし、非製造業では価格転嫁の進捗が停滞していることに加え、販売価格の上昇により販売量が伸び悩んでいる状況がみられる。
	○	広告代理店（従業員）	受注量や販売量の動き	・9月は天候に恵まれ、イベントなどが順調に行われたことから、当社の売上も順調に推移した。
	○	司法書士	受注量や販売量の動き	・中古不動産の売買やリフォームなどの登記に関する売上が増加した。3か月前と比べると、個人、企業のいずれも不動産関連の取引がやや活発になっている。
	○	その他サービス業〔建設機械リース〕（営業担当）	取引先の様子	・人手不足や資材価格の高騰などの問題はあものの、国内建設投資は引き続き堅調に推移している。

	○	その他非製造業 〔鋼材卸売〕 (従業員)	受注量や販売量 の動き	・毎月、案件が徐々に増えており、受注状況について、当初見込みを上回る数値となっている。
	□	建設業（経営者）	受注量や販売量 の動き	・人員配置の問題もあって、受注量、販売量に変化がみられない状況にある。
	□	建設業（従業員）	受注量や販売量 の動き	・案件は多いものの、対応できる技術者が不足しているため、契約件数を増やせない状況にある。そのため、景気は現状維持で推移している。
	▲	食料品製造業 (従業員)	受注量や販売量 の動き	・O E M製品の受注が減っている。
	▲	金属製品製造業 (従業員)	受注量や販売量 の動き	・新築住宅の着工棟数は、前年とほとんど変わっていない。金利が上昇傾向にあることから、一定の駆け込み需要は生じているものの、地価が高騰しているため、戸建て住宅の床面積が減少傾向にある。また、高性能住宅が一般化していることで、熱源機メーカーや当社のようなパネルヒーターメーカーにとっては逆風となっている。材料価格の改定や人件費の引上げにより、製造原価が上昇していることもあって、大変厳しい状況にある。
	▲	司法書士	取引先の様子	・建築資材を始め、あらゆる物の価格が上昇しており、価格が上昇する間隔も短くなっている。このため、景気はやや悪くなっている。
	×	—	—	—
	◎	—	—	—
	○	—	—	—
	□	求人情報誌製作 会社（編集者）	求職者数の動き	・景気は大きく変わっていないものの、求職者の採用数が増加している。W e bでの求人探しが中心となっているなか、フリーペーパーやリアルイベントを通じて応募する求職者が増えており、それで採用が決まるケースも増えている。
雇用 関連 (北海道)	□	求人情報誌製作 会社（編集者）	求人数の動き	・求人数は、業種を問わず、大きく変わっていない。
	□	求人情報誌製作 会社（編集者）	求人数の動き	・天候に恵まれ、農作物の収穫が好調に推移していることで、景気は好調に推移している。また、9月の大型連休があったことで、イベントなどの集客が好調に推移したこともプラスであった。
	□	職業安定所（職員）	求人数の動き	・全体の求人数は前年を下回っているものの、小売業などの一部業種では、求人数が伸びている。また、医療や介護では、求人数が減少しているものの、企業からは、業界の人手不足が続いている状況は変わっていないとの話が多く聞かれる。
	□	職業安定所（職員）	求人数の動き	・当地における8月の月間有効求人倍率は0.72倍であり、前年を0.07ポイント下回った。一方、3か月前の月間有効求人倍率は0.71倍であり、前年を0.09ポイント下回った。水準は大きく変わっていないことから、景気は変わらない。
	□	職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数は減少傾向にあるものの、季節要因などで求人数が増減する業種もあることから、景気の悪化によるものとはいえない状況にある。今後の物価上昇や人件費の引上げ、人口減少、少子高齢化などの影響を注視していく必要がある。
	▲	人材派遣会社 (社員)	求職者数の動き	・3か月前と比較して、求職者からの新規の面談申込みや登録の動きが目立って落ち込んでいる。企業の採用意欲は底堅く、求人数も多いものの、求職者の動きが鈍いことから、書類推薦や面接に進む候補者が集まりにくい状況となっている。人材紹介事業において、求職者の活動量の落ち込みは、数か月後の採用決定数の減少に直結することになる。求職者が、転職に対して慎重になっている様子が見え、今後の自社の業績にマイナスの影響を及ぼす懸念があることから、身の回りの景気はやや悪くなっている。
	▲	人材派遣会社 (社員)	採用者数の動き	・求職者について、60代以上の年齢層が非常に多くなっている。

	▲	職業安定所（職員）	雇用形態の様子	・正社員求人が減少しており、パートなどの非正規求人の比率が若干伸びている。正社員採用が抑制傾向にあることから、企業の事業活動が上向いているとは判断できない状況にある。
	▲	学校〔大学〕（就職担当）	求人数の動き	・人手不足を背景に、求人数は維持されているものの、求人数の伸び悩みや職種の偏りがみられるようになっており、企業の採用姿勢が以前よりも慎重になっている。物価高による企業収益の圧迫などの影響もあって、景気はやや下向いている。
	×	—	—	—